

令和7年度 学校評価報告書 (目標設定 実施結果)

視点	4年間の目標 (令和6年度策定)	1年間の目標	取組の内容		校内評価		学校関係者評価 (3月23日実施)	総合評価 (3月31日実施)	
			具体的な方策	評価の観点	達成状況	課題・改善方策等		成果と課題	改善方策等
1 教育課程 学習指導	<p>①新学習指導要領を踏まえた効果的な学習指導を進めることにより、ものづくりの現場や新たな社会(Society 5.0)で求められる、職業人としての専門的かつ実践的な技術・技能と、それを支える基礎的学力の着実な定着を目指す。</p> <p>②特別活動への取組から、他者との協働を進める上で必要となる資質と能力を育成する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 新教育課程の教育内容を充実させ、社会変化に対応できる生徒の育成を目指す。また評価にあつては一人ひとりの資質・能力に対応した規準・基準を工夫し「一人取り残さない」指導・支援を行う。① ICT利活用やDXハイスクール事業を推進し、技術・技能向上の為の様々な企画に取り組み、学校の専門性を深化させる。① 学校行事や生徒会活動を充実させることで、生徒の自己肯定感を向上させると共に、他者との協働の機会の中で生徒の成長を促す。② 	<ul style="list-style-type: none"> 授業改善研修を定期的に行い、教科や世代を超えた授業改善に関するアイデアを共有し改善に活かす。① ICT利活用授業研究、DXハイスクール事業等の推進のためカリキュラムマネジメントに取り組みとともに、各種イベントやものづくりによる地域貢献活動などにおいて学習成果を活かした活動を実践する。① 学校行事や生徒会活動に対する生徒の意見や要望を調査し、生徒会を軸にした活動の活性化を図る。② 	<ul style="list-style-type: none"> 授業改善に関する取組や、各事業の成果をまとめる事ができたか。① 各種イベントや地域貢献活動において生徒が学習成果を活かした活動を実践できたか。① ICT利活用の実践により授業改善が進んだか。DXハイスクール事業の推進により、デジタル人材の育成に向けた取組は実践できたか。成果は得られたか。① 学校行事や生徒会活動を充実させるための検討と実践ができたか。全校生徒へのアンケートで、の肯定的な回答を3/4以上得られたか。② 	<ul style="list-style-type: none"> 新教育課程に即した授業改善研修やDXハイスクール事業の推進により専門的・実践的な技術・技能と基礎的学力の定着を概ね図ることができた。① ICT利活用による授業研究や、地域貢献活動における学習成果の実践は、学校の専門性を深化させる一助となった。また個々の資質・能力に応じた評価の工夫により、支援体制の基盤を構築した。① 特別活動においては、生徒主導の活動を活性化させ、行事を通じた他者との協働の機会を充実させた。その結果、生徒の自己肯定感の向上や、社会で求められる資質・能力の着実な育成において相応の成果が得られた。② 	<ul style="list-style-type: none"> 教員間のICT活用スキルの差を解消し、DX事業を単なる操作習得から創造的思考の育成へと深化させる必要がある。カリキュラムマネジメントを通じて、より組織的な授業改善を継続する必要がある。① 特別活動においては、全員が役割と居場所を実感できるよう活動内容をブラッシュアップするとともに、生徒自らがPDCAサイクルを回せるような指導的と体制の強化を進め、社会の変化に柔軟に対応できる実践的な能力をさらに高めていく。② 	<ul style="list-style-type: none"> 教科指導にて観点別評価を推進するなど生徒の良い面を引き出す指導に努めている。① DXハイスクールやICT利活用事業の推進により、Society 5.0時代に即した教育環境を整えようとしている。また単なるツールの操作習得に留まらず、「創造的思考の育成」を目指す今後の方針を心強く感じる。今後は大学などの連携も進め、より先進的な内容を取り入れ、取組を深化させることに期待する。① ものづくりを通じた地域貢献活動は、生徒の技術習得だけでなく職業観の醸成にも直結している。今後は教員間のスキル差を解消し、組織として安定した高度な専門教育の継続を望む。① 体育祭や文化祭などの行事において生徒主導の運営が進められ、活性化が進んでいる。引き続き特別活動の充実に取り組みしてほしい。② 	<ul style="list-style-type: none"> 個々の資質・能力に応じた評価基準を工夫し、一人ひとりを支援する基盤を構築することができた。① DXハイスクール事業によりSociety 5.0に即した教育環境を整備した。単なる操作習得に留まらず、創造的思考の育成を目指した授業改善が進んだ。① ものづくりを通じた地域貢献活動により、生徒の専門的スキルと職業意識が向上した。① 行事の生徒主導化により、自己肯定感の向上と他者との協働能力の育成に相応の成果が得られた。② 	<ul style="list-style-type: none"> 一人ひとりの資質・能力を引き出し支援するための指導を進めるため、指導体制の強化に引き続き取り組む。① 教員間のICT活用スキルに差があるため、組織的な授業改善と共有を継続して行う。① 大学等との連携を強化し、より先進的な教育内容をカリキュラムに取り入れることについて検討する。① 生徒自らが活動のPDCAサイクルを回せるよう、意識を高める働きかけをするとともに、さらなる活性化に向け指導体制を強化していく。②
2 (幼児・児童・) 生徒指導・支援	<p>①豊かな人間性と社会性、及びコミュニケーション能力の育成に向けた指導を推進する。</p> <p>②全ての生徒の学校生活がより良いものとなるよう、教育相談及び支援教育体制を充実させ、一人ひとりに対し丁寧な対応を行う。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 部活動における様々な取組を通し人間性とコミュニケーション能力の向上を図る。① 「基本的生活習慣の確立」と「マナーを含むソーシャル・スキルの向上」に資する指導と支援を推進する。① 教育相談・支援教育に学校全体で共通認識を持ち、SCやSSWのほか外部機関とも連携し組織的に対応する。高校選択に際してミスマッチの生徒も多いことから、学習意欲、登校意欲を向上させる支援を行い、50名近かった転退学者を減少させる。② 	<ul style="list-style-type: none"> 部活動の内容を充実させるとともに、生徒に自らの成長を実感させる指導に努める。① 「基本的生活習慣の確立」と「マナーを含むソーシャル・スキルの向上」に資する指導及び問題行動の予防的指導に、支援の視点からのアプローチを行う①② コア会議を通じて、生徒の困り感や発達のアセスメントを的確に行い、SSWやSCのほか外部機関との連携を図り、生徒一人ひとりに対応した組織的な不登校支援や発達支援などの計画と実施を行う。② 	<ul style="list-style-type: none"> 部活動への参加生徒が増加したか。部員へのアンケートで、肯定的な回答を3/4以上得られたか。① 基本的生活習慣や社会的マナーは定着できたか。問題行動の発生を防止するための取組は進められたか。問題行動は減少したか。① 日常的な教育相談やサポートドック、個人面談を通じて、様々な生徒に対する状況の確認と効果的な支援を実施する事ができたか。② 	<ul style="list-style-type: none"> 部活動の活性化を通じ、生徒の豊かな人間性とコミュニケーション能力の育成に努めた。① 各部署と連携して基本的生活習慣や社会的マナーの定着、問題行動の発生を防止するための取り組みを進め、特別指導案件は昨年度より減少したが、この傾向はその年度の生徒の性質にも依存する。① 生活習慣の確立やマナー向上に関しても、支援的な視点を取り入れ、問題行動の対応を行った。また、コア会議を中心としたSCやSSW等との組織的な連携により、生徒一人ひとりの「困り感」に応じた的確なアセスメントと支援を実施した。①② 	<ul style="list-style-type: none"> 部活動への参加率向上に向けたさらなる魅力化や、ソーシャル・スキルの定着を日常のあらゆる場面で促す指導の継続が今後の課題である。① グループ再編に向けた調整が必要。①② 不登校や発達に関する支援においては、アセスメントの精度をさらに高め、外部機関との連携体制を深化させる必要がある。学習意欲の維持が困難な生徒の自己肯定感を育むスモールステップの支援を継続する。② 	<ul style="list-style-type: none"> 高等学校の部活動は、顧問の尽力により成り立っているところがあるが、部活動が継続的に活発に活動できる体制をつくるためには、学校全体でフォローし組織的に対応できる体制づくりが必要。① 支援が必要な生徒が増加している中で、校内での支援体制の拡充に努めており、しっかりと対応ができています。SCやSSWと連携した組織的な支援体制により個々の生徒の「困り感」に対応し、特別指導案件の減少と転退学者の減少につなげている点を評価する。①② 基本的生活習慣の定着やソーシャル・スキルの向上は、企業が採用時に重視する要素のひとつである。また自己肯定感を育むスモールステップの支援は、将来の地域産業を支える人材の定着に大きく寄与する取組であると考えます。② 	<ul style="list-style-type: none"> 部活動や生活指導を通じ、社会性やコミュニケーション能力の育成に努め、問題行動の未然防止を図ることができた。① 全国大会出場という成果を残した部もあり、部活動の活性化が着実に進んでいる。① コア会議を軸にSCやSSWと連携し、生徒の「困り感」に応じた的確なアセスメントと支援を実践した。② スモールステップの支援により、学習・登校意欲を維持させ、特別指導や転退学者の減少を実現した。② 	<ul style="list-style-type: none"> 部活動における様々な指導の教育的効果は高く、引き続き活性化に向け取り組みが、実施にあたり顧問個人の尽力に頼らず、学校全体で組織的に部活動を支え、継続的に活性化させる体制づくりを進める。① 不登校や発達に関するアセスメントをさらに深め、外部機関との連携をより強固にする必要がある。② 組織再編を見据え、規律ある指導と個に応じた支援をより一体的に進める調整が不可欠である。②

	視点	4年間の目標 (令和6年度策定)	1年間の目標	取組の内容		校内評価		学校関係者評価 (3月23日実施)	総合評価(3月31日実施)	
				具体的な方策	評価の観点	達成状況	課題・改善方策等		成果と課題	改善方策等
3	進路指導・支援	<p>①地域や社会の発展を担う職業人に求められる能力や態度を育成するとともに、自らの可能性への気付きを促すキャリア教育を効果的に実施する。</p> <p>②生徒が望む進路の実現を支援するため、それぞれに対しきめ細かな進路指導を進める。</p>	<ul style="list-style-type: none"> キャリア教育を充実させるため、自己理解や職業理解を促す効果的な指導を各学年段階に合わせ実践する。① すべての生徒・保護者が望む進路を実現させるとともに、的確な情報を提供するなどミスマッチを防ぐための指導を行う。② 	<ul style="list-style-type: none"> 外部講師や企業と連携したガイダンスを実施するとともに、就業体験活動や出前授業を取り入れながら生徒それぞれのキャリア発達を促す指導を推進する。① 就職や進学に係る情報を効果的に提供するための対応を適切に行う。② 	<ul style="list-style-type: none"> キャリア教育や進路指導に対する生徒や保護者の満足度は高いか。アンケートで肯定的な回答を3/4以上得られたか。①② 就職や進学など生徒・保護者が希望する進路を、全ての卒業生に実現させることはできたか。② 	<ul style="list-style-type: none"> 生徒一人ひとりが社会で自立できるよう、自己理解や職業理解を深める指導が各学年段階に合わせて実践した。また、外部の専門家や企業と積極的に協力し、生徒のキャリア形成を多角的にサポートすることができた。① 就職情報は「ハンディ進路室」の導入で速やかな提供を行い、進学情報を通して情報提供を行った。また、各系での調整でスムーズな指導ができた。② 	<ul style="list-style-type: none"> 学年段階に合わせた指導や就業体験、出前授業などを実践しているが、長期的な視点で目標を明確にし体系的に再構築することが重要。① 就職用に続き進学用の「ハンディ進路室」の導入を進め、手入力で人手と時間がかかっていた進学情報の一元管理と効率的な提供を目指す。② 	<ul style="list-style-type: none"> 外部講師や企業と連携したガイダンスや、地域や企業などと連携した実践的な体験活動を積極的に取り入れるなどして、ものづくりの現場で活躍できる人材の育成にしっかりと取り組んでいる。これらの取組は人材育成にあたり、地域社会における自分の立ち位置を自覚させ効果的である。また地域経済の活性化の観点からも有意義である。① 進路情報のデジタル管理(ハンディ進路室)の導入による効率化は、変化の激しい時代に対応するための優れた取組であり評価できる。② 	<ul style="list-style-type: none"> ガイダンスや就業体験等を効果的に実施し、生徒の自己理解・職業理解を深めることができたが、キャリア教育全体を長期的体系的に整理することや、進学情報の管理、提供方法の改善が課題として残った。① ハンディ進路室の導入により、就職情報の迅速な提供と円滑な指導が可能となった。② 	<ul style="list-style-type: none"> キャリア教育全体を長期的、体系的に整理することや、進学情報の管理、提供方法を改善するため、学年段階ごとの目標を明確にし、3年間を見通し体系的にキャリア教育を実践できる体制の再構築を進める。① 進学分野においてもハンディ進路室の導入を進め、効率的な情報提供を実現する②
4	地域等との協働	<p>①連携・協働により地域に貢献し愛される学校づくりを進める。また各種の活動を生徒の課題解決能力の伸長や人間的成長に繋げる機会とする。</p> <p>②地域とともにある学校としての認知度を向上させるため、積極的に情報発信を行う。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 大規模災害の発生に備え、引き続き地域の自治体や町内会、また企業等との連携を強化しながら対応を進める。① 本校での学習により身に付けた知識や技能を活用し、地域連携や地域に貢献する活動に取り組む。① 本校の魅力特色を地域や中学生に発信し、学校理解を促し志願倍率の向上を目指す。② 	<ul style="list-style-type: none"> 災害に対する備えについて各種の点検を行う。また自治体や近隣の町内会、地域の企業等と連携した防災訓練を実施する。① 地域の各種のイベント等に積極的に参加し、地域に貢献する。① HP、SNS等を活用しスピーディな情報発信を行う。② 説明会等で、ホスピタリティを重視して、新規に中学生を獲得する。 	<ul style="list-style-type: none"> 防災に関連した点検を行い、課題を改善できたか。地域と連携した防災訓練を効果的に実施できたか。① イベント等への来場者や関係者から評価を得ることはできたか。① HP、SNSの閲覧数や更新回数を増加させられたか。② 説明会等の来場者は増加したか。アンケートで肯定的な回答を3/4以上得られたか。志願倍率は向上したか。② 	<ul style="list-style-type: none"> 今年度新たに、1年生及び地域防災担当者を対象とした防災教育(水消火器訓練体験、災害用トイレの設置訓練等)を、藤沢市と協力し実施。① 校内実施の学校説明会は、全3回で約600名の参加があり、生徒による学校説明はアンケートで大変な好評を得た。①② むつあい市民まつりにてプログラミング体験を実施し好評を得た。① HPにてPTA広報誌のデジタル配信を始め、閲覧数が増加、及び印刷費カットに繋がった。またInstagramを新たに開始し、SNSによる情報発信を強化した。なお、XとInstagramの更新は36件(前年比0.72倍)。② 	<ul style="list-style-type: none"> 地域と連携した防災訓練については、今後更なる充実を検討する。① 説明会や外部イベントにおける生徒による説明や活動の機会を増やしたところ好評であったため、次年度ブラッシュアップを進める。① ICT利活用による広報の手段を増やす事ができた。今後もICTの広報活動での利活用を進めて本校の魅力を効果的に発信し、志願者数増につなげたい。② 	<ul style="list-style-type: none"> 地域と連携した防災訓練の実施や、地域イベントでのものづくりやプログラミング体験など、学校の資源を地域に積極的に還元している姿勢を高く評価する。① 防災関係では、地域と連携した取り組みが進められているが、災害時は地域との連携は重要であり、更なる強化を目指してほしい。① Instagram等のSNSを活用した積極的な情報発信は、学校の「見える化」に繋がり、志願者確保にもつながると考える。地域の商工業者にとっても、貴校が身近で魅力的な存在であることは重要である。② 様々な活動やSNSなど情報発信についても取り組みの維持、継続がされるようお願いしたい。② 	<ul style="list-style-type: none"> 建設にかかわる系の生徒が、地域企業の指導のもと設置した防災トイレを活用した訓練を、藤沢市と連携して実施することができた。① 校内外の学校説明会や、地域の各種イベントにおける生徒達の取り組みに対し、来場者の皆さんより高い評価を得ることができた。①② 公式HPやXのほか新たにInstagramを加えるなどICTを活用した情報発信を積極的に推進した。② 	<ul style="list-style-type: none"> 地域の防災拠点としての役割を果たすため、藤沢市や地域の自治会等との連携をさらに深めた訓練を検討するなど、地域貢献に向けた取組を強化する。① 生徒が活躍し本校の魅力を広く伝える各種の取組を、無理なく効果的に行うための環境を整備する。①② 引き続きSNSなどICTを活用した効果的かつタイムリーな情報発信を積極的に行うための体制を整備していく。②
5	学校管理 学校運営	<p>①安全安心に活動できる教育環境を整備するため、施設設備の充実、事故や災害への対策を進める。</p> <p>②学校運営の組織的な改善や事故・不祥事の発生防止に取り組み、社会の信頼と期待に応える学校づくりに努める。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 教育活動を安全安心に行うため、校内環境の整備と改善を進める。① ICT利活用授業研究やDXハイスクール事業を推進するための環境や施設設備の充実を図る。① 事項不祥事防止に向けた体制の整備と、職員の意識を向上させる働きかけを引き続き行う。② 	<ul style="list-style-type: none"> 校内の施設・設備の充実と安全の確保、引き続き校内の美化に係る活動に取り組む。① 教室の配置変更に対応するため、Wi-Fi環境の整備が必要になった箇所の対応を進める。② 啓発研修を継続的に実施するとともに、マニュアルや作業手順の点検と整備を行う。② 	<ul style="list-style-type: none"> 施設設備の点検・整備、また破損箇所や危険個所の改善ができたか。校内美化や廃棄物の適切な処理を推進できたか。① 校内の教室、実習室においてWi-Fi環境が整ったか。① 職員の意識向上に寄与する取組や、事故不祥事防止に向けた取組を実践できたか。② 	<ul style="list-style-type: none"> オフィス改善事業に合わせ職員室等の整備を進めた。また、体育館のカーテンなどの破損箇所等及び危険個所として体育館の緞帳を点検し、安全安心に活動できる環境に整えた。① Wi-Fi環境の整備を進め、大きく支障のある個所は概ね改善できた。① 職員会議での研修のほか不祥事防止に向けた情報の提供を随時行うなど、意識を高める働きかけを継続的に行った。② 	<ul style="list-style-type: none"> 校内の施設・設備の充実に努め、安全の確保をするとともに、引き続き校内の環境整備に取り組む。① Wi-Fi環境については十分に満足できるものとは言えないため引き続き整備に努める。① 改善が必要な案件が見受けられたことから、各所の再点検と意識の更なる向上を促す取組が必要である。② 	<ul style="list-style-type: none"> DX推進の基盤となるWi-Fi環境の整備や、オフィス改善事業による職場環境の適正化が進んでいるが、まだ改善の余地がある。デジタル人材育成の観点からも適切な投資と保守の継続が必要。インフラ整備は教育の質を担保する絶対条件である。① 廊下床面の改修工事により校内美化が進んでいると感じたが、まだ床材の剥離、汚損、経年劣化があるので引き続き改修を進めてほしい。① 不祥事防止に向けた啓発研修は組織の信頼性を維持する上で不可欠な取組であり、今後も継続することが必要である。② 	<ul style="list-style-type: none"> 職員室や体育館などの環境整備を着実に進めることができたが、施設設備の老朽化もあり改善が必要な個所は多く残る。① Wi-Fi環境の改善は進んだが、ICT利活用の推進にはより充実した環境が求められる。① 不祥事防止研修を継続的に行うなど意識向上に努めたが、県備品の紛失など問題のある事例が発生した。② 	<ul style="list-style-type: none"> 改善が必要な個所について危険がないか再確認を行うとともに、内容を精査して優先順位をつけ、計画的に改善を進める。① ICT利活用指定校やDXハイスクールの取組を充実させるため、環境の向上に向けた活動を推進する。① 県備品の情報端末紛失を受け管理体制を見直したが、他の項目についても再点検する。②